

令和2年度第3回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録

日 時：令和3年3月26日（火）

出席者：1号委員 ト部、長尾、釜井、木戸
2号委員 山下、三浦（哲）、内村、生田、朝位、Netra、平松
3号委員 西嶋、渦岡、土屋、倉田、池田、塚原、安江
4号委員 橋本（武）
6号委員 柴山、畑山、横松
オブザーバー 橋本（学）、福田、鈴木（代理出席）
陪 席 河津、幸、大西

（敬称略、委員名簿順）

配付資料

- 資料1 京都大学防災研究所自然災害研究協議会出席者名簿
- 資料2 令和2年度第2回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録(案)
- 資料3 協議会本部活動報告
 - 3-1 本部地区
 - 3-1-1 データベース SAIGAI
- 資料4 地区部会活動報告
 - 4-1 北海道地区 4-2 東北地区 4-3 関東地区 4-4 中部地区
 - 4-5 近畿地区 4-6 中国地区 4-7 四国地区 4-8 西部地区
- 資料5 令和2年度年度 自然災害研究協議会 予算執行状況
- 資料6 令和3年度年度京都大学防災研究所自然災害研究協議会委員名簿(案)
- 資料7-1 拠点間連携に関する協定書
- 資料7-2 東大地震研・京大防災研 拠点間連携共同研究委員会 2号委員名簿

議事に先立ち、オブザーバーの橋本防災研究所長及び福田文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室長から挨拶があった。

議 事：

1. 前回議事録の確認（資料2）

残会出席の朝位委員の名前が出席者一覧より抜けている点が指摘された他は、原案とおり、了承された。

2. 令和2年度の協議会本部活動報告等（資料3）

原案とおり、了承された。報告要旨、以下のとおり。

- ・第57回自然災害科学総合シンポジウム（2020.9.1 参加者数：108名）及び河川災害に関するシンポジウムの開催（2020.11.6 参加者数：215名）の2件を共にオンライン開催。
- ・突発災害調査の実施（特別研究促進費）として「令和2年7月九州豪雨災害の総合調査・研究」を実施。
- ・自然災害研究協議会による突発災害調査研究サポート 3件
- ・データベース SAIGAI については、防災研究所の資料整理は、同一の資料が複数存在することが判明したこと、資料にカビが発生したために燻蒸作業を実施したことなどから若干のペースダウンがあったが引き続き実施。2021年中に完了の見込み。
- ・コロナ禍で延期中の GADRI サミットについては8月にオンライン開催の見込み。現委員長の後任者については選考中。

3. 令和元年度の各地区部会活動報告及び予算執行状況報告（資料4）

原案とおり、了承された。イベントの報告については参加者人数等のより詳細な情報を記入すること、コロナ禍によりイベントのオンライン開催等が増えたが、これは、遠隔地で開催されるイベントにもアクセスが容易になることでもあるので、本部のサイトにおいて情報を集約してはとの意見があり、検討されることとなった。各報告要旨、以下のとおり。

○北海道地区：

- ・北海道地区幹事会及び総会の実施（2020.8.17、2020.12.21、2020.3.17）（いずれもオンライン開催）。
- ・地区フォーラム「2020 防災フォーラム・北見」をオンライン開催（2021.3.25）。
- ・「北海道地区自然災害科学資料センター報告 34号」冊子印刷を3月末に発行予定。
- ・HPの運営管理。
- ・オンライン開催により不要となった経費は災害調査に使用するドローンの購入に使用。

○東北地区：

- ・東北地域災害科学研究集会および東北地区部会総会のオンライン開催（2020.12.25～26）。
- ・研究論文集「東北地域災害科学研究」第57巻の発刊（2020.3.1）。
- ・HPの管理運営。
- ・メーリングリスト（東北地区部会員名簿）の管理運営。
- ・東北地区自然災害資料センターの管理運営。

○関東地区：

- ・2020年度防災・日本再生シンポジウム“彩の国”市民科学オープンフォーラム「令和元年東日本台風から1年：行政と住民、それぞれの危機管理の方向性」（2020.12.5 ウ

ェスタ川越 参加者数：85名)。

○中部地区（戸田部会長欠席のため渦岡委員が代理報告）：

・げんさい楽座のスピアウト企画の随時開催（岐阜大学地域減災研究センター）、げんさい楽座(2021/1/9 実施)の報告書印刷(A4サイズ・カラー・20ページ：40部)

・減災館特別企画展の開催（名古屋大学減災連携研究センター）

第29回「東海豪雨から20年～豪雨がもたらす多面的リスクを理解し、備えるために」（2020年6月24日～11月21日 名大減災館）及び第30回「東日本大震災から10年～必ずやってくる南海トラフ地震にどう備えるか」（2020年12月7日～2021年3月25日 名大減災館）

・東海圏減災研究コンソーシアム事業（2020年12月21日 参加者数：9名）のオンライン開催及び「三重大学・伊勢志摩防災アカデミー」（2020年12月5日（土）、12日（土）、19日（土）・伊勢市防災センター 参加者数：12/5（土）38名、12/12（土）38名、12/19（土）35名）の開催（三重大学 地域圏防災・減災研究センター）

・シンポジウム「ひと・まち・地域を育てるこれからの防災～南海トラフ巨大地震に打ち勝つ最前線の取り組みを知る～」(2021年3月10日)のオンライン開催（名古屋工業大学 高度防災工学センター）

・シンポジウム「コロナ下の技術革新～建設業界～」(2021年2月12日)のオンライン開催（主催：豊橋技術科学大学 安全安心地域共創リサーチセンター）

・自然災害科学中部地区研究集会（2021年3月6日）のオンライン開催（主催：静岡大学防災総合センター・自然災害研究協議会中部地区部会）

○近畿地区：

・防災関連研究集会の共催。

・近畿地区部会幹事会の開催。

・京都大学防災研究所地域防災実践型共同研究の実施

・HPの管理運営。

○中国地区：

・中部会ホームページの管理・充実を図り、部会員への情報提供（主として研究・発表会）。

・2020年度自然災害研究協議会中国地区部会研究発表会（2021年3月14日 参加者数：20～30名）のオンライン開催。

・自然災害研究協議会中国地区部会 研究論文集（第7号）の発行。

○四国地区：

・熊本県八代市・人吉市周辺土砂災害地調査（2020年7月九州南部豪雨災害関連）（2020年8月10日～12日）及び福島沖地震被害調査（2021年2月13日発生）（2021年3月13日～15日）を実施。

・「令和2年自然災害フォーラム&第15回南海地震四国地域学術シンポジウム」（2020

年 12 月 18 日（高松市）を開催。

○西部地区：

- ・令和 2 年度自然災害研究協議会西部地区部会研究発表会（2021 年 2 月 5 日 参加者数：30 名）のオンライン開催。コロナ禍による研究縮小を反映してか例年の半分程度の発表。
- ・令和 2 年度自然災害研究協議会西部地区部会報（45 号）の発行（2021 年 2 月）
- ・メーリングリストの管理運営。

4. 令和 2 年度の本部予算執行状況報告（資料 5）

原案とおり、了承された。

協議会は全てオンライン開催で旅費の執行はなかった。それによる余剰は、SAIGAI 運営経費（カビの燻蒸等）及び突発災害調査に使用。

5. 令和 3 年度の委員について（資料 6）

原案とおり、了承された。なお、輝本委員の職名及び松四委員の名前のフリガナを、それぞれ、准教授から教授に修正、マツンからマツシと修正することとした。また、突発災害の地震・火山及び風水害の部会については次年度の初回の協議会までに新しい委員の中から内諾を得ることとされた。

6. 令和 3 年度東大地震研・京大防災研 拠点間連携共同研究委員会委員について

現委員が引き続き担当することで、原案とおり、了承された。

7. 令和 3 年度第 58 回自然災害科学総合シンポジウムについて

2021 年 9 月 2 日又は 13 日で調整中と報告された。

8. 今後の予定（令和 3 年度第 1 回自然災害研究協議会開催等について）

4 月開催予定と報告された。

9. その他

なし。

最後に退任委員から挨拶があった。

以 上